ハ　ギ・・・

萩の花　尾花葛花撫子の花　女郎花また藤袴　朝顔の花

（※朝顔の花とは，キキョウのことです。）

山上憶良が秋の七草を詠んだ万葉集の歌ですが，その冒頭を飾るのがハギであり，「草冠に秋」の字からも，まさに秋を代表する花と言えます。実際，万葉集には１４１首と最も多く詠まれており，２位のウメは１１９首といいますからダントツです。いにしえより日本人は秋風に揺れるハギの花に風情を感じてきたのは間違いありません。

脱線しますが，子どものころ，秋の七草を「お好きな服は？」で教えられました。オミナエシ・ススキ・キキョウ・ナデシコ・フジバカマ・クズ・ハギの頭文字をつないだものです。

ハギの語源は，新春に古株から芽を出す意味の「生芽（はえぎ）」が変化して「はぎ」となったそうです。当団地では，５号棟の西側に数株見られます。そのしなやかな風情からミヤギノハギだと思います。ハギの花言葉は「柔軟な精神」，その枝垂れ具合に根拠があるのでしょう。

閑話休題。

彼岸の供え餅に「ぼたもち」と「おはぎ」があります。これらは，春の彼岸が，春を代表するボタンの花にちなんで「牡丹餅」→「ぼたもち」となり，秋の彼岸がハギの花にちなんで「御萩餅」→「おはぎ」となったからと言われています。薀蓄（うんちく）話として面白いとは思いますが，私の郷里では，アズキ餡（あん）をまぶしたものを「ぼたもち」，黄粉（きなこ）を用いたものを「おはぎ」と区別しました。そして，いつも２種類同時に盛られていたのはどういうことなんだと突っ込みたくなります。

ついでながら，餡の原料であるアズキは夏に収穫されるので，秋の「おはぎ」の頃にはまだ柔らかいために「つぶあん」にし，冬を越え春になった「ぼたもち」のときには固くなった粒のままでは使えないので「こしあん」にする習慣からも，両者の区別ができたとも言われています。

最後に蛇足ですが，植物名はカタカナ表記が原則ですので，毎号それに従っていますが，今回はどうも不統一感を拭えません。申し訳なく思っています。